

取り組みを通じて、成長が感じられた3日間でした

1年 清里移動教室 7月14日(月)～16日(水)

移動教室1日目、東京は雨の予報でしたが、清里は晴天で絶好のハイキング日和でした。昼食場所の美味小舎でバーベキューを食べ、八ヶ岳自然ふれあいセンターの駐車場までバスで移動、そこから美し森展望台までのハイキングに出発しました。森を抜けるといきなり視界が開けキープファームの展望テラスに到着、雄大な景色を背景に集合写真を撮りました。



その後、再び森の中の遊歩道を進んでいきました。緩やかな登りなので少し歩くだけで汗が出てきますが、日差しが木々に遮られているため、思いのほか軽快に進んでいくことができました。むしろ一番きつかったのは、「美しの森」展望台まで一気に登っていく最後の階段でした。しかしその甲斐あって、清里高原を一望できる展望台からの眺めは素晴らしく、ここまで歩き切った充実感を味わうことができました。



夕食後は、陶芸体験に取り組みました半球状の発泡スチロール原型に、粘土をお茶碗の形に成形、それにそれぞれ思いの模様を描きました。焼き上がりは六ヶ月後です。じっくりと焼き上げていくため30年は持つものになるとのことで、出来上がりが楽しみです。



移動教室2日目は、雨が降ったり止んだりの天気でしたが、当初の計画通り、八ヶ岳中央農業実践大学校へ行き、「農林業体験」をしました。炭焼きや林業、酪農やバター・チーズ・ジャム作りなど、どれも日頃やることも見ることもない仕事＝労働活動なので、楽しいだけでなく特別な経験であり、懸命に取り組んだ分、とても充実感がありました。



昼食をはさんで、午後は「森づくりワークショップ」を行いました。全員がヘルメットを着用し、一人一本“手のこ（小型ののこぎり）”を腰に下げ、学級単位で森の下草刈りに取り組みました。この時間帯は雨粒も大きくなってきましたが、集中して作業するため、それも気にならない程度でした。その後、建物に戻り、間伐材の丸太から各自でコースターを切り出す作業をしました。日頃、のこぎりを使い慣れていないため、なかなか上手く出来ませんでしたが、なんとか時間内に切り出すことができました。



この日の夜は雨のため、宿舎周辺の「ナイトハイク」はできませんでしたが、キープ協会のレンジャーの方々による「レンジャートーク」は予定どおり行いました。これは、体育館の四カ所で行われる、清里の動植物をテーマにしたレンジャーによる説明コーナーを、グループで巡回しながら聞いていく自然体験プログラムです。植物のコーナーでは、一日目のハイキングの出発場所にも生息している笹の葉やもみの木の葉の実物を使って観察したりニオイをかいだり、シカのコーナーでは、脚の剥製や頭部の骨、角の実物に触れたりしました。また、ヤマバトの剥製の羽毛に触れたり、ヤマネの着ぐるみを着てその生態を演じてみたりと、ただお話を聞くのではなく、標本や実物に触れながらの各15分程度の参加型プログラムなので、興味をもって楽しみながら参加することができ、あっという間の一時間でした。



移動教室三日目、最終日になってようやく天気もよくなったので、かねてから計画していた宿舎まわりの朝の散策をしました。森の中は静かでひんやりとしていて、高原のすがすがしい風を感じることができました。退園式の後、同じ市内の明野町へ行き、晴天のなかブルーベリー狩りを楽しみました。持ち帰りもできるので、大粒で美味しそうなものを探しながら食べながら摘んでいると、1時間ほどの滞在時間があったという間でした。自分で摘む楽しさ、摘み立ての美味しさを満喫することができました。その後、雨のため笛吹きフルーツ公園での昼食を早々に終えたことで、予定より少し早めに帰着することができました。



今回、中学生になってからの初めての移動教室ということで、始めはうまくできていないこともありましたが、各自が考えたり互いに協力したりすることで、日を追うごとにうまくできるようになり、この3日間でそのどれもがレベルアップされていきました。ここで培った力をこれからの学校生活でも生かして欲しいと思います。今回の取り組みを通じて、一人一人が、そして学年集団として、成長が感じられた3日間となりました。